

1. 活動報告（事務局 記）

- 9月2日（日）21名の参加がありました。参加者の皆さまお疲れ様でした。
 - ①工具小屋をビオトープに移送しました。内部を整理し今後は活動毎の搬送はありません。
 - ②池のエコアップを行ないました。アサザ、スゲ、イグサ繁茂部の除去
 - ③たんぼの防鳥ネットを取り外したあと稗を抜き取りました。稲刈りまでたんぼに入ることはありません。
- ※稲の穂が出て花が咲いていますので、合鴨の活動は本日終了として、蓮池にて今後皆様のお越しを待っています。
- ※たんぼの害獣防護柵はそのまま稲刈りまで猪除けで設置のままとします。
- 9月5・8・10日 草原の草刈り実施および刈った草の処理
- 9月11日 草原の川のエコアップ清掃、車地応援者協力を得て実施
- 9月12・13日 池、湿地帯周囲の草刈り実施
- 9月15日（土）午前、①駐車場の草刈り済み
 - ②ビオトープ刈った草の運搬集積済み
 - ③湿地帯の植生調査とエコアップ済み
 - ④蕎麦畑の一部草取りと泥掛け（途中）
 会員18名の参加者の方お疲れ様でした。
- 9月15日（土）午後の里山自然観察隊はカエルの捕獲大作戦でした。隊員15名、保護者9名、会員指導者10名で、カエル7種類123匹 中にはウシガエルの30cm級や通常見られない絶滅危惧種（トノサマガエル）も捕獲しました。秋吉台エコ・ミュージアムのカエル専門家の田原さんを講師に迎え、また田原さんからガマガエル（ニホンヒキガエル）も見せていただきました。
- 9月16, 17日 池回りの草刈り。湿地帯の池側土手下エコアップ（外来種駒繫ぎほか）猪の寝巢（寝るところ）数箇所とヌタ場（ダニなどを除去する泥沼）を発見
- 9月19日（水）蕎麦畑の機械溝上げ（泥掛け）、駐車場草焼き

2. 今後の予定（事務局 記）

- ◎ 見学者
 - 10月 3日（水）鵜の島小学校 松本先生ほか1年生2クラス（37名）
 - 11月11日（日）水と里山自然環境探訪ツアー
 - 日付未定 青年会議所環境学習 100名程度遊ロードからビオトープ
- ◎ 行事
 - 10月 7日（日）（第一日曜日）保全活動（エコアップ、草刈りなど）
 - 10月20日（土）（第三土曜日）保全活動（エコアップ、草刈りなど）、午後 里山自然観察隊（森の探検）
 - 10月27日（土）稲刈り・ソバ刈取りの予定

3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

- 9月6日— 駐車場からビオトープへ向かうとそこでいきなり出迎えてくれたのはシマヘビちゃん♪Well Come ビオトープ!! 本当にたくさんの生き物がいて、私はスーツのままうつぶせになって観察しました。歩いていると、バッタちゃんがブローチになってくれていました。今度はジャージで来るぞ!! 勤労青少年会館4階で修業中!! あやみんでした。

4. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

ミズキンバイとチョウジタデ

ミズキンバイは3年前、2004年の9月に忽然とビオトープに姿を現した絶滅危惧種の水草です。万が一、盗掘されたらいけないので、長い間オープンにしないようにしていましたが、3年目を迎えた今年はいへん増えてきたので、もう大丈夫だろうということで今回、会報に載せます。ミズキンバイはアカバナ科チョウジタデ属の多年草で、環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧ⅠA類という最高レベルの希少植物です。県別の希少種リストでも、山口、鹿児島、宮崎、愛媛、高知、神奈川、千葉の各県で絶滅危惧Ⅰ類に指定されています。山口県のレッドデータブックでは、宇部市岐波浦の記録(1921年)があるだけで現在消滅の可能性が高い、と記載されており、どうしてこのような植物がビオトープに出現したのか不思議です。当初、だれかが市販の苗を植えたという可能性も考えられましたが、この2004年は夏から秋にかけて、どういうわけかはわかりませんが、アサザ、トチカガミ、タヌキモ、デンジソウなどの希少植物が一举に現れた年であり、このミズキンバイも埋土種子による自然発生ではないかと思っています。ミズキンバイの実はしばらくの間、水に浮き、湿った土壤に果実を埋めた実験によると、埋没後7カ月目で果皮の腐蝕が進み、種子が散布されることが確認されたそうです(徳丸ほか, 2002)。このことから、果実は流水により散布され、種子は果実に収まった状態で土壤中に長い間保存されるものと推定されます。2004年は湿地の2カ所、溜め池の2カ所で小さい株が現れたのですが、その後保護育成に努めたので、溜め池の元株は大群落といってよいほどに繁茂し、その他の場所もあちこちで新しい株が発生しています。黄色い花を5月から10月まで次々に咲かせ、目立つ草花であると同時に、最高レベルの希少性を備えているので、ビオトープを象徴する植物という座は揺るぎようがありません。しかし、あまりはびこり過ぎて、今のアサザのように手を焼くことにならないように願いたいものです。

一方のチョウジタデは、ミズキンバイと同じ属に属していながら、花が小さく目立たない上、水田雑草として目の仇にされているかわいそうな一年草です。ビオトープの田んぼの畔際にも生えていて、今年はアイガモの柵があるのでそれに守られてやっと花を咲かせています。花や実のようすは、ミズキンバイのミニチュア版といった趣です。水湿地で呼吸するために根が海綿状に太くなり、白い呼吸根を出すところもミズキンバイと共通した性質を持っています。別名のタゴボウは、田牛蒡という意味で、この根っこをゴボウに例えたものです。チョウジタデは丁字蓼という意味で、丁字のような実を付ける蓼に似た植物という意味です。丁字とは、香料のクローブのことで、香料として使うつぼみを乾燥したものが釘に似ていることからきています。チョウジタデの花が終わった後の紅色の実は、まさに細い釘状をしています。この果実の中にたくさんの種子が入っています。抜かれても毎年出てくるたくましさはさすがに一年生の雑草です。きっと土中には無数の種が眠っているに違いありません。



ミズキンバイ (アカバナ科)



チョウジタデ (アカバナ科)

5. 地域イベント

第12回酒蔵コンサートがあります。場所は会員の永山酒造場で10月13日(土)17時30分からです演奏者 松田真朝, KUMI, NoN、ほか 前売り券3500円(当日券4000円)ですがコンサート後の飲み放題食べ放題です。

送迎バス宇部市役所16時20分と厚東駅16時50分及び17時05分とあります。

6. 里山自然観察隊 (9月15日、隊員15名、保護者9名、会員10名)

カエル捕獲大作戦

カエルの専門家である秋吉台エコ・ミュージアムの田原義寛さんをお迎えして、ビオトープ周辺にいるカエルの調査をしました。7種類で全部で123匹も捕まえることができました。さすが元気な子ども達で、一番多く捕まえた子どもは、兄弟で58匹でした。

ヌマガエル：101匹(筋有は54匹で53%、7月の田んぼの生き物の時は34%)、

ツチガエル：8匹、ニホンアカガエル：3匹、ニホンアマガエル：2匹、

トノサマガエル：3匹、シュレーゲルアオガエル：2匹、

ウシガエル：4匹(3匹はオタマジャクシの尻尾が少し残っているもの)

ウシガエルはルアーなどを用意して釣りに挑戦しましたが、一匹も掛からずに、子ども達が川にいる大きなウシガエルを発見して、網で捕まえました。

(西原 一誠 記)

7. 会よりの連絡事項 (事務局より)

1) 暑い夏が何とか乗り切れたようです。但しビオトープの維持管理は毎活動日の作業を時間短縮したため、あちこちで不要植物が繁茂しエコアップの活動が毎度累積し残ってきました。

今年ほど活動日以外にビオトープに草刈り機を担いで行った事はありませんでした。

お陰で何とか維持管理も出来て蕎麦の栽培も継続できました。蕎麦の花見が9月23日頃～3・4日可能と思います。花見は短い期間です是非お出でください。

8. 編集後記

連絡の徹底について一言述べさせていただきます。原稿の投稿を会員リレー式でお願いしておりましたが、いつの間にか編集局より特別お願いしても投稿いただくことが困難になりました。会の活動もいつも参加いただける会員が固定され、その中で欠席の場合は何らかの連絡が入ってきます。

不参加とも、参加とも全く連絡の無い方が会員中半分以上おられます。会報に何とか投稿いただけるか、参加できない活動日に連絡をいただけるか願いたく思います。

20年前は電話、FAX、Eメール連絡の機器は少なく、現在は素晴らしく発展しています。活動に気があるか?無いか?だけの問題ではないでしょうか?

ボランティア活動で会社組織ではないですから仕方ありませんが、メール連絡網でも一方的であろうと悲しい思いがします。

(原田 満洲夫 記)